



# 十小だより

令和8年4月30日  
第2号  
府中市立府中第十小学校

「仁」最高の徳

校長 草刈 あずさ

多磨霊園近隣の並木がきれいなピンク色から、若々しい黄緑色の新緑の季節となりました。新緑の芽吹く力からパワーをもらえそうな気分で、気持ちのよい朝を迎えられています。子どもたちも4月は、欠席者も少なく、心機一転がんばろうという心持ちが感じられます。クラス替えもして、新しい環境では、ちょっと背伸びして自分のいいところを見せたいという人の心理が働くものですから、本人が思っている以上に、疲れがたまっている時期でもあります。ゴールデンウィークで、心身ともにリフレッシュして、また元気に5月を過ごしてほしいと思います。

さて、私事ではありますが、3月末の休日、近所のスーパーマーケットの駐車場の車止めに気付かず、転倒して、左手小指を剥離骨折してしまいました。痛みはすぐに引き、はがれた骨も元の位置に戻り、あとは骨の中の成分が復活するのを待つような状況が続きました。指の付け根も固定しているため、けがの程度以上に痛々しい包帯を巻いて過ごしています。うっかり転倒して恥ずかしい気持ちがありますが、このけがによって、また子どもたちの素晴らしい姿に触れることができました。

「校長先生、どうしたんですか？」というやりとりの後、「お大事にしてください」「気を付けてください」という言葉をたくさんかけてもらいました。他の場面でも、元気な十小の子どもたちが、雨でも外で遊んでいるところによく会いますが、その時に「大丈夫？風邪ひかないようにね」と声をかけると「はい」「大丈夫です」という返事の他にも「校長先生も風邪をひかないように気を付けてください」などと返されることもあります。

自分が子どもの頃に、大人に対してもこんなにいたわる言葉を言えただろうかと振り返ると、十小の子どもたちは、人として本当に素敵な子が多いなと感心します。論語でいうところの「仁」。相手も思いやる心は、人として最高の徳だそうです。この素晴らしい心をいつまでも持ち続け、人に伝え、どんどん広がるといいなと思います。大人も子どもから学ぶことがたくさんあります。十小の学校経営方針の「一人一人を大切にする学校」は、教職員が子どもを大切にしてほしいという思いで設定していますが、子どもたちも、周りの人を大切にする学校であってほしい、十小の子どもたちならなれるだろうと思います。

ゴールデンウィークには、府中市が誇る大國魂神社のくらやみ祭があります。例年、山車行列には参加させてもらっています。3年生は社会科で府中市のことを、4年生は社会科で地域にある昔から伝わるものとしてくらやみ祭について学習します。興味がある方は、ぜひ参加、見学をしてはいかがでしょうか。